

は楽しかったようだ。

それから大学側が例として取り上げたアメリカ大恐慌期のデータに關し、「あまり身近な問題に思えないのですが、大学生の皆さんは授業をどう役立てているんですか」との質問も出た。画面越しに指名を受けた「眼鏡のお兄さん」は「いまのこの役に立つてはいませんが、将来、役に立つと思って勉強しています」と、やや恐縮気味に答えた。そこで

実験を繰り返し、

徐々に改善

また前回、集音マイクだけを使ったので、音が拾えなかったが、今回はマイクを使って話せるようにしている。ただし、個々のパソコンの画面をカメラで拾うことはできない。

指導役の横倉教授は「パソコンを動かしたり、データを入れ替えたりする授業だけに、口だけで説明するのは難しい。最先端の授業とはいえ、黒板や図・グラフなど従来のものも使いたい」と、まだまだ改善の余地はありそうだ。

教授はさらに「授業内容は、学部

「もう少し具体的に広告と売上げのデータを取り上げ、マーケティング予測などに役立てることもできますよ。自分の工夫次第で応用できると思います」と横倉教授が補足説明すると、「いまのお話をうかがって、役立つと思いました」との返事が返ってきた。このやり取りを見聞きして、一方通行の授業では得られない、双方向ならではの会話のメリットを痛感した。

しいというレベルです。しかし、高校低学年の数学の知識があれば十分理解できます。高校で習う知識をきちんと習得して大学に入ってほしい」とおっしゃった。

商学部では、他に米国イリノイ州立大学と「日米就職活動の違い」をテーマにした、3回にわたるビジネス・コミュニケーションの遠隔授業も行った。このほか、高校とはキャンパス・インターンシップを始め、協定を結んだ高校では、大学で習得した単位を高校の単位として算入している。



チームメートに胴上げされる阿部選手

ことしのプロ野球ドラフトの目玉とされた中大野球部の阿部慎之助捕手（商4）が、読売巨人軍を逆指名し、11月17日に開かれたドラフト会議でも1位指名を受けた。この日、1号館でドラフト会議で指名を受ける阿部選手を取材しようと60人以上のマスコミ陣が押しかけ、その模様がテレビ中継された。

「夢への扉が開かれるのを、いまか、いまかと待ち受けています」とナレーションが流れる。ドラフト会場の模様を映すテレビ画面に、全員が目が釘付けとなる。阿部選手はうつむき加減にモニターテレビを見ている。マネジャーの女性が祈るようなポーズをとる。その間ずっと沈黙が続く。カメラの後ろでスタンバイしている野球部員が「こっちの方が緊張してきた」との小声が聞こえる。

阿部選手

おめでとう

1位指名で

巨人に入団

拍手と歓声が上がった。アナウンサーから、指名を受けた瞬間の気持ちを聞かれ、「ホツとしました。本当に呼ばれるかと心配でした。とても嬉しかったです」と笑顔で答えた。ドラフト会場の長島監督から「ポジションは力で確保してください」とのコメントが入ると、「期待を裏切らないよう頑張ります」と答え、巨人入りについては「伝統のあるチームで、大観衆の前でプレーできることが魅力です」と話した。

（学生記者・杉村麻衣子）